

**令和7年度第1回久留米広域連携中枢都市圏
ビジョン懇談会全体会議事録**

(1) 日 時：令和7年8月27日（水）15:00～16:30

(2) 会 場：久留米ビジネスプラザ会議室C

(3) 出 席 者：

<委員>

伊佐淳委員（座長）、實藤俊彦委員、吉海和正委員、木本洋輔委員、古賀亮史委員、
緒方博子委員、田篠正規委員、首藤有一委員、古川広治委員、岡村亮委員、
吉岡マサヨ委員、眞子佳子委員、大原邦秀委員、宮本明子委員、下川裕二委員、
江口訓史委員、安井慶子委員

<事務局>

久留米市総合政策部総合政策課 深堀課長、豊福参与、坂田調整官、山部主査、佐藤

<構成市町>

小郡市経営戦略課 牟田主幹、うきは市企画政策課 手島課長、

大木町企画財政課 川村課長

<ワーキンググループ職員>

※ワーキンググループは、以下WGと表記

(4) 欠 席 者：

穴見英三委員、吉田誠委員、益村千夏委員、柳原浩子委員、野口裕子委員

(5) 次第及び議事：

1 開会	
2 新任委員紹介	事務局から新任委員5名を紹介。
3 久留米広域連携中枢都市圏ビジョンについて	[事務局より制度概要の説明]
4 第2期ビジョンの総括について	[事務局より資料の説明]
座長	委員の皆様から意見等を頂きたい。
委員	KPIの達成状況について、目標は達成するという前提で設定をしているかと思うが、予算をかけてこの達成状況は違和感を覚える。他の圏域のKPIの達成状況も久留米圏域と同じような状況と理解をして良いのか。
事務局	他圏域のKPIの達成状況については、把握できていない。久留米圏域の達成状況については、ご指摘の通り達成まで努力を要するという項目が多く、達成状況に与えている影響として、コロナ禍で圏域住民の生活スタイルが変わったことによるものが大きいと考えており、特に生活関連機能サービスは生活に密着した事業が多いので、生活スタイルの変化に伴って、項目によって

	は与えている影響が大きいものと考えている。しかし、第2期ビジョンからの新たな取組を開始したものや既存事業についてもしっかりと取組みを進めことで、圏域として掲げる将来像の実現という観点では一定の成果があつたと総括をしている。
委員	コロナの影響については、一過性のものであり、コロナ禍後なので KPI は達成するという理解でよいか。
事務局	第2期ビジョンの KPI を設定する時にコロナ禍の影響は加味しているが、結果としてはそれ以上に目標との乖離が生じてしまっているもの。
座長	第2期ビジョンの実績については、令和6年度まで総括をしているため、実績の把握はこれで終わりという理解か。
事務局	第2期ビジョンについては、令和7年度までが計画期間なので、令和7年度の実績は把握させていただくが、第3期ビジョンを策定する上での総括に関しては、令和6年度実績を総括として皆様にお示しさせて頂いているところ。
座長	KPI の観光入込客数や鉄道乗降客数は、推移を見て頂くと上昇傾向にあるので、今後は目標値に近づいてくるものと考えているが、年少人口割合などは、達成まで努力を要すると評価をしている。
委員	大刀洗町については、人口が伸びている状況だと思うが、どのような要因で伸びているのか、今後の検討材料として参考にさせて頂きたいと教えてほしい。合同会社説明会について、年に何回程度開催しているのか。また、KPI の研修会・講演会への連携市町職員の延べ参加人数について、目標と実績に大きな乖離が生じていると思うが、要因を教えてほしい。 路線バスの乗降客数について、減少傾向であり、総走行距離も 10%程度減少している。バス事業としてはやむを得ないところもあるので、次期ビジョンの KPI を設定する際にはこれらの状況も考慮し目標設定をした方が良いと考えている。
事務局	正確なお答えではないかもしれないが、大刀洗町は子育て施策に力を入れられており、土地の価格の面などで子育て世帯や若い世帯が居住をしているため、人口が伸びていると伺っている。合同会社説明会の開催状況について、資料2にこれまでの実績を記載しているが、それぞれの開催回数は把握ができていない。KPI の研修参加人数の実績について、オンラインで研修会や説明会が行われることになったため、4市2町で対面の集合形式の実施機会が少なくなっていることが要因として考えられる。

座長	オンライン研修の参加人数は集計していないから、目標と実績の乖離が生じているという状況なのか。
人材確保・育成WG	コロナ禍を経て、研修の在り方が大きく変わったことが大きな要因で、対面で集まることができない状況において、オンラインなどの新たな手法が取り入れられたところ。オンライン研修などについては、それぞれの市町で参加をすることになる。KPI の実績数については、対面で集まった人数のみを集計している。
委員	大刀洗町においては、インフラが整っている地域は人口が増えているが、地域のよっては、人口減少・少子高齢化が加速している状況である。同じように久留米圏域に関わらず、どの地域においても、中心部は再開発などで交通などの利便性の向上などから人口が集中していると思うが、周辺部は過疎化が進行していると思う。産業分野では、商工会議所の加入者も減少しており、ものづくり産業の維持が課題だと認識しており、人口維持のためには、まずは、働く場の創出が必要だと考えている。農業従事者も後継者不足などが課題であり、久留米圏域として何か手立てはないか検討してほしいと思う。

5 第3期ビジョンの骨子（案）について

〔事務局より資料の説明〕

座長	委員の皆様から意見等を頂きたい。
委員	ビジョンの構成について、SDGsとの連動という項目があり、17ある目標のうち、貧困や飢餓といった目標があるが、これに関してはどの連携事業に関連するのか。
事務局	SDGsとの関連性については、目標の内容によっては、関連性が薄い項目もある。あくまでも、連携事業を設定する際にSDGsではどの目標に該当するのかという視点で整理をしているもの。第3期ビジョンの素案については、より具体的な内容をお示しできると思うので、そこでSDGsの視点についてもお示しさせて頂きたいと思う。
委員	ものづくり産業などは、後継者不足問題等で事業継承ができずに、廃業が増えている現状がある。新しい産業を創出するという視点も、もちろん重要ではあると思うが、今まで培ってきた技術などいかに継続させていくかというところにもフォーカスをして頂きたいと思う。 物産展への出展事業では、地場産くるめや商工会連合会などのお力添えを頂きながら、首都圏等で開催される物産展に出展をさせて頂いた。福岡県からもバックアップして頂いており、イベントで人脈づくりもできているため、ものづくりが継続できており、非常に感謝している。

委員	圏域内の総生産額は目標を達成しているが、労働者数に関しては、目標に対して微増という結果。この KPI に関連している事業としては、地元企業への採用支援事業だと思うが、企業への雇用を促すための支援については、賃金等の問題もあり難しい状況だと認識しているがどのようなお考えがあるのか。人手に代わる新たな技術も生み出されている中で、単に雇用者数という数値目標は少し難しいと思うので、人口という視点も持ち、第3期ビジョンでは目標値の見直しも検討してはどうか。
事務局	目標値の見直しに関しては、令和7年度が最終年度なので第2期ビジョンについては、現状値で進めていきたいと考えている。第3期ビジョンを策定する際には、頂いたご意見を参考にしながら他の KPI も含めて検討していく。
委員	魅力ある観光商品づくり事業に関して、小都市では鴨のまちとして対外的に PR をしており、9/1 から鴨まち小郡スタンプラリーを開催するので、広域的に取組ができないかと考えていたところ。人口減少・人材不足に対応するため、第3期ビジョンで婚活事業を位置付けてもよいかと考えており、首都圏等から地方へ移住をする方も増えていると聞いているので、この機会を逃さずに取り組んでみてはどうか。
広域観光・MICE WG	魅力ある観光商品づくり事業に関しては、「まち旅博覧会」に圏域として取組んでおり、小都市の鴨については、まだラインナップがされていない。観光商品化してラインナップすることは検討ができると思う。また、広域観光連携推進事業では、西鉄久留米駅や JR 久留米駅の観光案内所にデジタルサイネージを設置し、圏域で情報発信を行っていく予定でありイベントの PR のために活用は可能である。
子育て支援 WG	現在、少子化対策の一環で結婚支援に取り組んでおり、全国的なトレンドとして、都道府県単位で結婚支援センターを立ち上げて、マッチングアプリを使った事業などが展開されている。福岡県においても、県下で取組を進めており、圏域市町も県と連携されているので、県の取組との住み分けも含めて圏域としてどのような取組ができるのかは検討すべきかと思う。
委員	大学連携事業について、自治体が抱える地域課題の解決が目的だと思うが、逆に大学側の特色ある取組と連携して事業化ができれば良いと考えていたところ。プロスポーツとの連携活用について、スケートボードやスポーツクライミングといったスポーツに対して、圏域で施設の整備ができると県内・九州などからも集客が見込める施設となる可能性もある。今後若者たちがプロスポーツを目指すきっかけづくりにもなると思うので、施設を整備することによる付帯的な効果も期待できると思う。

事務局	大学との連携について、行政発信での課題の解決が主な内容ではあるが、ご意見のとおり、大学と行政とが双方向でコミュニケーションできれば、さらに圏域の活性化につながるものと考えている。
委員	先ほど、SDGsとの関連があったと思うが、2030年にはSWDsという概念が提唱されており、第3期ビジョンにおいても、一步前進した取組として考えてはどうかと思っている。また、久留米広域ウェルビーイングなびについて、どのような取組を進めてきたのか、第3期ではウェルビーイングという視点で具体的にどのような取組を進めていかれる予定なのか。
事務局	SWGsの内容を確認し、連携事業とどのように位置づけができるのか、第3期ビジョンを策定する際には検討をしたいと思う。久留米広域ウェルビーイングなびについては、第2期ビジョンで構築を行い、まずは、サイトをどう知って頂くかという視点で取組を行ってきたところ。第3期ビジョンでは、圏域の魅力を発信するツールとして活用し、しっかりと情報発信を行っていきたいと考えている。
うきは市	うきは市においても現在、総合計画を策定しており、SWGsについても内容を伺っているところ。SDGsについては、2015年から2030年までの開発目標としており、SWGsについては2031年からの開発目標と掲げられている。第3期ビジョンは2030年までの5年間なので、次期ビジョンまでは、SDGsの視点で策定して良いのではと考えている。
委員	広域観光連携推進事業について、観光協会としていろいろな所で観光PRをしているが、自前のコンテンツのみでは、集客に限界を感じているところ。広域という枠組みを使って、ポータルサイトを活用した情報発信も良いとは思うが、PRするターゲットに対して、自前のコンテンツでは対応ができない場合などは、広域という枠組みを使って他市町が持つコンテンツで何か活用できないかなどを検討できると良いと思っている。このようなケースに対して、広域で情報が集まる場があると、テーマを決めて定期的に意見交換ができ、現場サイドとしてはありがたいと思うので、第3期ビジョンに位置づけができないかと考えている。
事務局	現状の取組として、4市2町の事業担当課が集まり、ワーキンググループを作っており、担当課同士で意見交換の場はすでに設定しているという認識。広域観光連携推進事業では、4市2町がそれぞれの情報を持ち寄ってデジタルサイネージというツールを使って一体的に発信をするといった取組を行っていくところ。それをさらに発展させ、観光協会から市町の担当課に情報を流していただき、集まった情報でどのような取組ができるのかなどは検討ができると思う。

座長	すでに市町の担当課で構成されているワーキンググループに観光協会が入るといったことは可能なのか。
広域観光・MICE WG	4市2町の担当課で構成しているワーキンググループについては、秋頃を目途に会議を開催しようと考えており、その中で、第3期ビジョンに向けての課題整理と取組の方向性を再度、議論しようと考えている。その中で、今後のワーキンググループの活動に関係団体も含めて参集範囲をどこまで広げていくのかに関しては、まずは、ワーキンググループの中で協議をさせて頂きたいと思う。ご意見については、観光部局につないで頂ければ、担当課も意見を集約できると考えている。
5 その他	
座長	全体を通して、委員の皆様の意見・質問はないか。
委員	(意見なし)
6 閉会	